

作成日：2019年12月24日

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称	: 目地カビイッキ落ち
製品コード	: 540032
会社名	: ヤブ原産業株式会社
住所	: 埼玉県川口市安行北谷546
電話番号	: 048-297-4111
緊急連絡電話番号	: 048-297-4111
FAX 番号	: 048-290-1199
推奨用途および使用上の制限	: 業務用 カビ取り剤

2. 危険有害性の要約

製品のGHS分類、ラベル要素

GHS分類

健康に対する有害性

皮膚腐食性及び刺激性	: 区分 1
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性	: 区分 1
特定標的臓器(単回)	: 区分 2 (呼吸器系)
特定標的臓器(反復)	: 区分 2 (全身毒性)

環境に対する有害性

水性環境有害性(急性)	: 区分 1
水性環境有害性(長期間)	: 区分 1

GHSラベル要素

注意喚起語
危険有害性情報

危険
重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷
呼吸器系の障害のおそれ
長期にわたる又は反復ばく露による全身毒性の障害のおそれ
水生生物に非常に強い毒性
長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性

注意書き

【安全対策】

- 使用前に取扱説明書を入手すること。
- 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
- 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
- 取扱い後は汚染箇所をよく洗うこと。
- ガス/ミスト/蒸気を吸入しないこと。
- 環境への放出を避けること。
- 屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。
- 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
- この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。

【応急措置】

- 飲み込んだ場合: 口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。医師の診断、手当てを受けること。
- 吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。直ちに医師の診断手当を受けること。
 皮膚に付着した場合：直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を多量の水と石けん(鹼)で洗うこと。
 皮膚刺激又は発しん(疹)が生じた場合：医師の診断/手当てを受けること。
 ばく露またはばく露の懸念がある場合：医師の診断、手当を受けること。
 気分が悪い時は、医師の診断、手当を受けること。
 漏出物を回収すること。
 汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。

【保管】

施錠して保管すること。

【廃棄】

内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別：混合物

成分名	含有量(%)	CAS No.
水	バランス	7732-18-5
次亜塩素酸ナトリウム	1-3	7681-52-9
水酸化カリウム	-1	1310-58-3
安定化剤	1-5	
ゲル化剤	1-5	

注記：これらの値は、製品規格値ではありません。

4. 応急措置

吸入した場合	空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 気分が悪いときは医師に連絡すること。
皮膚(又は髪)に付着した場合	付着物を清浄な乾いた布で素早く拭き取る。 溶剤、シンナーを使用してはならない。 直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を流水/シャワーで洗うこと。 大量の水及び石鹼又は皮膚用の洗剤を使用して十分に洗い落とす。 皮膚刺激又は発しん(疹)が生じた場合：医師の診断/手当てを受けること。 外観に変化が見られたり、刺激・痛みがある場合、気分が悪いときには医師の診断を受ける。
眼に入った場合	直ちに清浄な流水で15分以上洗眼する。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。 まぶたの裏まで完全に洗う。医師の診断を受ける。
飲み込んだ場合	口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。嘔吐物を飲み込ませてはならない。 医師の指示のない場合は、吐かせてはならない。 気分が悪いときは医師に連絡すること。 負傷者を安静にし直ちに医師の診察を受ける。
応急措置をする者の保護	救助者はゴム手袋と密閉ゴーグルなどの保護具を着用する。 適切な換気を確保する。

5. 火災時の措置

消火剤	この製品自体は燃焼しない。 泡、粉末、乾燥砂、霧状水、を使用すること。
使ってはならない消火剤	酸との接触により、有毒な塩素ガスを発生するので、酸性の消火剤は避ける。
特有の消火方法	安全に対処できるならば着火源を除去すること。 危険を避けられれば燃焼源の供給を止める。 消火水の下水への流入を防ぐ。

消火を行なう者の保護	指定の消火剤を使用すること。 消火作業の際は、適切な保護具(手袋、マスク等)を着用する。
<hr/>	
6. 漏出時の措置	
人体に対する注意事項、 保護具及び緊急時措置	周辺を立ち入り禁止にして、関係者以外を近づけないようにして二次災害を防止する。作業の際には適切な保護具(手袋、保護マスク、エプロン、ゴーグル等)を着用する。こぼれた場所はすべりやすいため注意する。
環境に対する注意事項	漏れ出した物質の河川、下水、排水溝、低地への流出を防止し、環境への影響を起こさないよう注意する。
封じ込め及び浄化の方法及び機材	不活性の物質(乾燥砂、土など)に吸収させて、容器に回収する。多量に流出した場合、盛土で囲ってのち処理する。スコップ、ウエス等で容器に回収する。回収物はラベルを貼って密閉容器に保管し、安全な場所に移す。必要なら亜硫酸ナトリウムを用いて分解させて処理する。
二次災害の防止策	漏出物を回収すること。
<hr/>	
7. 取扱い及び保管上の注意	
取扱い	
技術的対策 (局所排気、全体換気)	ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。 排気/換気設備を設ける。また、容器はその都度密栓する。 皮膚に触れないようにする。 眼に入らないようにする。
安全取扱注意事項	酸と接触したり、pHが低下すると塩素ガスの発生が起きるので注意する。 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。 取扱い後は手、汚染箇所をよく洗う。
接触回避	データなし
保管	
安全な保管条件	施錠して保管すること。
適切な保管条件	日光の直射を避ける。通風のよいところに保管する。 指定された容器以外に移し替えないこと。 容器内に重金属が混入しないようにする。
<hr/>	
8. ばく露防止及び保護措置	
設備対策	屋内作業の場合は、局所排気装置などにより作業者が暴露から避けられるようにする。タンク内部等の密閉場所で作業する場合には、密閉場所、特に底部まで十分に換気できる装置を取り付ける。
許容濃度	(日本産業衛生学会)水酸化カリウム 2mg/m ³ (ACGIH)水酸化カリウム 2mg/m ³ (2001)
保護具	
呼吸用保護具	作業を行う場合には、適切な保護マスクを着用すること。
手の保護具	有機溶剤または化学薬品が浸透しない材質の手袋を着用する。
眼の保護具	保護眼鏡/顔面保護具を着用する。
皮膚及び身体の保護具	保護衣を着用する。(化学薬品が浸透しない材質であることが望ましい。)
特別な注意事項	取扱い後は汚染箇所をよく洗うこと。 この製品を使用するとき、飲食又は喫煙をしないこと。 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。 保護具は定期的に点検する。
<hr/>	
9. 物理的及び化学的性質	
外観(物理的状态、形状、色など)	: 無色透明ゲル状(赤色粒子含有)

臭い	: 弱原料臭
pH	: 13以上(原液、25°C)
融点・凝固点	: データなし
沸点、初留点および沸騰鹵に	: データなし
引火点	: データなし
燃焼または爆発範囲の上限下限	: データなし
蒸気圧	: データなし
比重(相対密度)	: データなし
容器度	: データなし
n-オクタノール/水分配係数	: データなし
自然発火温度	: データなし
分解温度	: データなし

10. 安定性及び反応性

反応性	: データなし
化学的安定性	: 熱、光、金属などに極めて不安定で、放置すると徐々に分解し有効塩素を失う
危険有害反応可能性	: 標準的条件では危険な反応はしない。
避けるべき条件 (静電放電、衝撃、振動など)	: 腐食性があるので鉄製の容器は使用しない
混触危険物質	: アミン類、アンモニア、酸との接触やpHの低下により塩素ガスを発生する
危険有害な分解生成物	: 塩素ガス

11. 有害性情報

毒性学的影響に関する情報	
急性毒性 急性毒性(経口)	(水酸化カリウム) rat LD50=284 mg/kg
皮膚腐食性・刺激性	(次亜塩素酸ナトリウム) ラビット 腐食性 (水酸化カリウム) ラビット 腐食性
眼に対する重篤な損傷・刺激性	(次亜塩素酸ナトリウム) ラビット 腐食性 (水酸化カリウム) ラビット 腐食性
皮膚感作性	データなし
生殖細胞変異原性	データなし
催奇形性	データなし
発がん性	データなし
生殖毒性	データなし
特定標的臓器毒性	
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	(次亜塩素酸ナトリウム) 区分3: 気道刺激 (水酸化カリウム) 区分1: 呼吸器系
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	データなし
吸引性呼吸器有害性	(水酸化カリウム) 区分1
その他情報	
この製品自体のデータは得られていない。	

12. 環境影響情報

生態毒性	
水生毒性(急性) 成分データ	(次亜塩素酸ナトリウム) 甲殻類(ニセネコゼミジンコ) LC50=5 µgFAC/L

残留性・分解性	データなし
生体蓄積性	データなし
土壌中の移動性	データなし
オゾン層への有害性	データなし
その他情報	
この製品自体のデータは得られていない。	

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	環境への放出を避けること。 内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄すること。 廃液、容器等の廃棄物は、許可を受けた産業廃棄物処理業者と委託契約をして処理する。排水処理、焼却等により発生した廃棄物についても、廃棄物の処理及び清掃に関する法律や関係する法規に従って処理を行うか、委託する。 容器、機器、装置等を洗浄した排水等は、地面や排水溝にそのまま流さない。
汚染容器及び包装	空容器は内容物を完全に除去してから処分する。

14. 輸送上の注意

国際規制	
国連番号	1791
品名(国連輸送名)	次亜塩素酸塩溶液
国連分類	クラス8(腐食性物質)
容器等級	II
海洋汚染物質	該当
MARPOLによるばら積み	該当 (Y類)
輸送される液体物質	
国内規制	
輸送又は輸送手段に関する	輸送前に容器の破損、腐食漏れ等がないことを確認する。
特別の安全対策	転倒、落下、破損がないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。
応急処置指針番号	154

15. 適用法令

当該製品に特有の安全、健康及び環境に関する規則/法令	
毒物及び劇物取締法	該当しない。
労働安全衛生法	水酸化カリウム(1%)
化学物質管理促進(PRTR)法	該当しない。
消防法	該当しない。
船舶安全法	腐食性物質
航空法	腐食性物質
海洋汚染防止法	有害液体物質 Y類

16. その他の情報

参考文献	
安全データシート(各成分) 各原料メーカー	
JIS Z 7253 (2012年)	
JIS Z 7252 (2014年)	
製品評価技術基盤機構:GHS分類データベース	
化学工業日報社「ラベル・製品安全データシート作成実務必携 GHS対応国内版」	
安全衛生情報センター	
責任の限定について	

本記載内容は、現時点で入手できる資料、情報データに基づいて作成しており、新しい知見によって改訂される事があります。また、注意事項は通常の実施を前提としたものであって、特殊な取扱いの場合には十分な安全対策を実施の上でご利用ください。
ここに記載したGHS分類区分の算定根拠は現時点における日本公表データです。